

## ゆとり教育見直し

中山成彬文部科学相は「ゆとり教育」を反省し、新学習指導要領の全体的な見直しを進める考えを表明した。十五日付で発表された小・中学生を対象とした「国際数学・理科教育動向調査」(TIMSS2003)で中二理科が前回の四位から六位に低下、平均点も中二数学と小四の算数・理科で前回よりダウンするなど、小・中学生の基礎学力低下が明らかになったことを受けたもの。歴代の大臣で学力低下を認めた上で、ゆとり教育の見直しを打ち出すのは初めて。

児童生徒の学力低下の傾向は、高校一年生の読解力などの低下が明らかになった経済協力開発機構(OECD)の学力調査(PISA)に続くもの。中山文科相は二つの結果から、「とても世界のトップレベルといえない状況を厳しく受け止めないといけない」と述べた。

その上で、文科省が「新学力観」として進めてきた「ゆとり教育」について、「生きる力を育てようとしたが、必ずしもそうっていないことは反省しないといけない。このままでいいのだろうかという全体的な見直しをしなければいけない」と言及。さらに、「余裕を持って基本的なことを教え、自ら考えられる前向きの子供たちを育てようということだったが、それが必ずしもそうっていないことを今回の調査結果が示した。対策を講じていかなければならない」と述べ、全国学力調査の導入などで「ゆとり教育」の見直しを進める考えを示した。

これを受け、文科省は、昭和四十一年に日教組の反対などで廃止された全国学力調査の導入を検討するプロジェクトチームを設置する一方、文科相の見解を伝えるため、二十四日に都道府県教委の担当者を集めた会議を開催し、周知徹底を図る。(産経新聞)

教育方針をたびたび変えるのは子供が混乱してしまいますよね。文部科学省には子供のことをきちんと考えて対策を練ってほしいものです。

2005年3月保護者